



1月25日に行われた市民ワークショップの様子
グループに分かれ、意見を出し合いました



みんなで協力し合って暮らしやすいまちに

みんなで進める！「地域福祉」

問合せ先 福祉課地域福祉係 ☎72-2111内線445



皆さんが住んでいる地域は暮らしやすいですか？
困ったときや災害時に助けてくれる人はいますか？

地域の福祉課題を地域のみんなで協力し合って解決し、暮らしやすいまちをつくる「地域福祉」という取組み、主役は地域住民一人ひとりです。

今回は、その「地域福祉」と、市が策定を進める「小郡市地域福祉計画」についてお知らせします。

**全国的に進む
地域のつながりの希薄化**

近年、少子高齢化が急速に進むとともに、個人の価値観が多様化することにより、地域のつながりの希薄化が進み、地域住民間の親しい付き合いや助け合いという家族や地域で相互に支え合う機能が失われてきています。

その結果、子育てや介護をしている人、障害がある人など日常生活で何らかの支援を必要とする人々が不安やストレスを感じたり、社会的に孤立したりするという問題も生じています。

このような地域社会の変化は、自殺や孤独死、暴力、虐待などの新たな社会問題を増加させる要因となっています。

これまで地域の福祉問題は、行政や社会福祉協議会、民生委員・児童委員などが中心となり、解決に取り組んできましたが、それだけでは対応することができない複雑多様化した問題も起こっています。

このような中、近年、福祉サービス事業者の増加や行政区など地域での独自の活動をはじめ、ボランティアやNPOなどの社会活動への参加意識が高まり、地域に密着したきめ細かい活動も活発化しています。

新しい社会福祉の理念 「地域福祉」とは

「地域福祉」という考え方は、平成12年に社会福祉法が大幅に改正された際に、新しい社会福祉の理念として、法律に明記されました。

それは、子どもから高齢者まで住民の誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちをつくるため、行政だけでなく、社会福祉協議会や福祉ボランティア活動を行う人、福祉サービス事業者、それぞれの地域に住む住民など、地域に関係する全ての人や団体が協力し合って地域の福祉課題を解決し、より良い地域づくりを進めていくという取組みのことです。

人と人とのつながりを大切にして、福祉サービスを必要とする人たちの社会参加を促す「ともに支え合う社会づくり」のために、地域福祉の推進が求められています。

市民の声を反映しての

地域福祉計画策定

市では、地域福祉を進めるための基本的な考え方や仕組みを示す「小郡市

地域福祉計画」を策定するために、主役となる市民の皆さんの声を反映させることが大切であると考え、まず、平成25年10月から12月にかけて市民意識調査を行いました。

そして、1月18日・25日に市民ワークショップを開催しました。

市民ワークショップの様子

18日に行われた、久留米大学文学部客員教授の松尾誠治郎さんによる「地域福祉と市民の役割」についての講演では、地域福祉を進めるためには市民として積極的に地域福祉活動に参画す

ることが重要。助け合い、支え合える関係をつくっていくとともに、地域課題を自らの問題として受け止めることが必要と市民の役割の説明を受けました。

そして、25日に行われた市民ワークショップでは、市民約60人が参加。住んでいる小学校校区ごとのグループに分かれ、4つのテーマ別に意見を出し合っていたいただきました。ワークショップで出された主な意見は左表のとおりです。



市民の声を反映させた 計画の策定を進めます

今回の市民ワークショップで出された意見は、今後、庁内の各種会議や、市内の福祉関係団体の代表者、市民代表の公募委員、有識者等で組織する委員会の中で、計画策定のために活用します。

また、今回掲載できなかった意見を含め、市民ワークショップ報告書を作成し、市ホームページに掲載する予定です。

参加者の皆さんには、2日間にわたりご参加いただき、ありがとうございました。

市民ワークショップで 出された主な意見

地域活動

- ・安否確認のため、回覧板は手渡しする。ポストに入れない
- ・いろいろな行事に参加できる人はいいが、高齢で参加できない人をどうするのか
- ・子どもや若い人から高齢者に対して、サークルや行事への参加を呼びかける

福祉サービス

- ・高齢者対策が実施されているが、知らない人が多い。必要な人にサービスの情報が届いていない
- ・隣近所の声かけ、情報提供の場をもつなど、住民全体の協力が必要

近所づきあい

- ・散歩に赤ちゃんを連れて行くと声をかけてもらい、コミュニケーションがとれる
- ・高齢者宅の見守りルールを決めている。カーテンの開閉がされているかを、隣りの人が確認している
- ・障害のある子どもをもつ家庭のこまり感を周囲や近所に理解してもらいたい

福祉活動

- ・登校時の子どもの交通見守りを地域の有志で行っている
- ・個人情報の視点から、地域の見守り活動をどこまで行っているかわからない
- ・活動がうまくいっている区のやり方を教えてほしい

